

申第18号について窓口説明 神戸製鋼のアルミ製品に関して 幹事間で説明！

会社は11月8日、申第18号「神戸製鋼のアルミ製品のデータ改ざん問題に伴う車両への影響と安全に関する申し入れ」について窓口における説明を行いました。

申第18号(10月13日申し入れ)

神戸製鋼所のアルミ製品のデータ改ざん問題に伴う 車両への影響と安全に関する申し入れ

マスコミは、10月9日、「神戸製鋼所によるアルミ製品のデータ改ざん」について報道した。その中で、「JR東海は、データの改ざんが発覚した神戸製鋼所のアルミ製品が東海道新幹線の台車の部品に使われていたと明らかにした。対象の車両数など詳細は調査中。JR側が改ざん前のデータを入手し検証した結果、強度を含む走行安全性に問題はないという。JRでは今後、正規品との交換も検討する。」と報道されている。

JR東海労は、データが改ざんされたアルミ製品が車両に使用されていることで、車両の安全に重大な問題が起きたと考える。何よりも乗務員と乗客は、マスコミの発表によって大きな不安感を抱いている。早急に安全を確保することを第一に考え、万全な安全対策を講じるために下記の通り申し入れるので、すみやかに労使協議を行うこと。

記

1. 「アルミ製品のデータ改ざん」について、神戸製鋼所から説明された内容を明らかにすること。

2. データが改ざんされたアルミ製品が扱われている部位、個数、車両編成、納入年月日を明らかにすること。
3. データが改ざんされたアルミ製品が明らかになって以降、そのアルミが使用されている部位の点検を実施したのか明らかにすること。又、点検を実施したのであれば、具体的な日時、部位、編成を明らかにすること。
4. 報道では「JR側が改ざん前のデータを入手し検証した結果、強度を含む走行安全性に問題はない」とされているが、「問題はない」とするその根拠について明らかにすること。又、「問題はない」とされているにもかかわらず、なぜ「今後、正規品との交換も検討する」のか明らかにすること。
5. 乗務員、乗客が安心して乗車できるよう、データが改ざんされたアルミ製品は全て交換すること。
6. 会社としての当面の対策を明らかにすること。

【会社回答】

本件は、外部に起因する事象であることから、業務委員会を開催しない。

1. 9月21日に新幹線車両の納入メーカーである日立、日本車両、また部品を製造している神戸製鋼所から、一部に不適合品があるとの報告を受けた。
2. 部品は軸箱体、軸箱の前ブタ、セミアクティブダンパ受、車体間ロールダンパ受、軸バネ座である。安全上の問題がないことが確認されており、個数、
3. 安全上問題がないことが確認されており、特別な点検は実施しない。通常通り、定期検査の中で異常の有無を確認していく。
4. 当社が安全に相当の余裕を見て設定している規格（JIS規格）の強度に対して、不適合品の強度は最大3%程度不足していたが、部品に発生する最大応力を上回る、極めて高い強度を有していることから、安全上の問題は無いと判断した。当該部品は、交換しなくても安全上問題ないが、当社の基準を満たしていないので、メーカーの供給能力も考慮しながら優先順位をつけて対応していく。
5. 仮に当該部品を交換しなくとも安全上の問題はないが、当社の基準を満た

していないので、メーカーの供給能力も考慮しながら優先順位をつけて対応していく。

6. 当該部品は、安全上問題がないことを確認している。

《主なやり取り》

組合：J I S規格の強度を下回っているのに、何をもって安全上問題ないといえるのか。

会社：規格自体相当余裕をもって設定しているので、安全上問題はない。

組合：神戸製鋼以外のアルミ製品は使用されているのか。

会社：U A C Jなど、神戸製鋼以外の物もある。

組合：交換について優先順位をつけて対応するとしているが、何が優先されるのか。

会社：強度がJ I S規格を下回っている軸箱体から交換する。

組合：一気にすべて交換すればよいではないか。

会社：ものすごい数のアルミ製品であるから、メーカーの供給能力もあり、それを考慮しながらの交換となる。

組合：交換に関する費用はどの様に考えているのか。

会社：現在まだ整理されていないが、安全上問題はないので、運用に関する損害はない。交換に関する人件費についても、通常の定期検査での交換となるので限定的なものとなると思う。

組合：部品についてはどうなのか。

会社：不良部品は当然相手の負担である。

組合：不良品を供給した神戸製鋼に対して、どのような対応をしたのか。

会社：メーカーに対しては、適切にやるよう指示していく。

以 上